

J-クレジット制度 プロジェクト計画書 （排出削減プロジェクト用）

プロジェクトの名称：

三重大学における

コージェネレーション、太陽光発電設備及び風力発電設備の

導入による省エネルギー事業

プロジェクト 実施者名	国立大学法人三重大学
----------------	------------

妥当性確認申請日 2016年2月26日

プロジェクト登録申請日 2016年3月23日

1 プロジェクト実施者の情報

1.1 プロジェクト実施者（複数のプロジェクト実施者がいる場合は代表実施者）

実施者名	(フリガナ) コクリツダイガクホウジンミエダイガク
	国立大学法人三重大学
住所	三重県津市栗真町屋町 1577

1.2 プロジェクト代表実施者以外のプロジェクト実施者 ※1

実施者名	(フリガナ)
住所	

1.3 J-クレジット保有者 ※1

保有者名	(フリガナ)
住所	

※1 J-クレジット保有者が決まっている場合は記入すること。

※ 以下、複数のプロジェクトをまとめて申請する場合は、2～4の内容を方法論ごと・実施場所ごとに記載すること。

2 プロジェクト概要

2.1 プロジェクトの目的及び概要

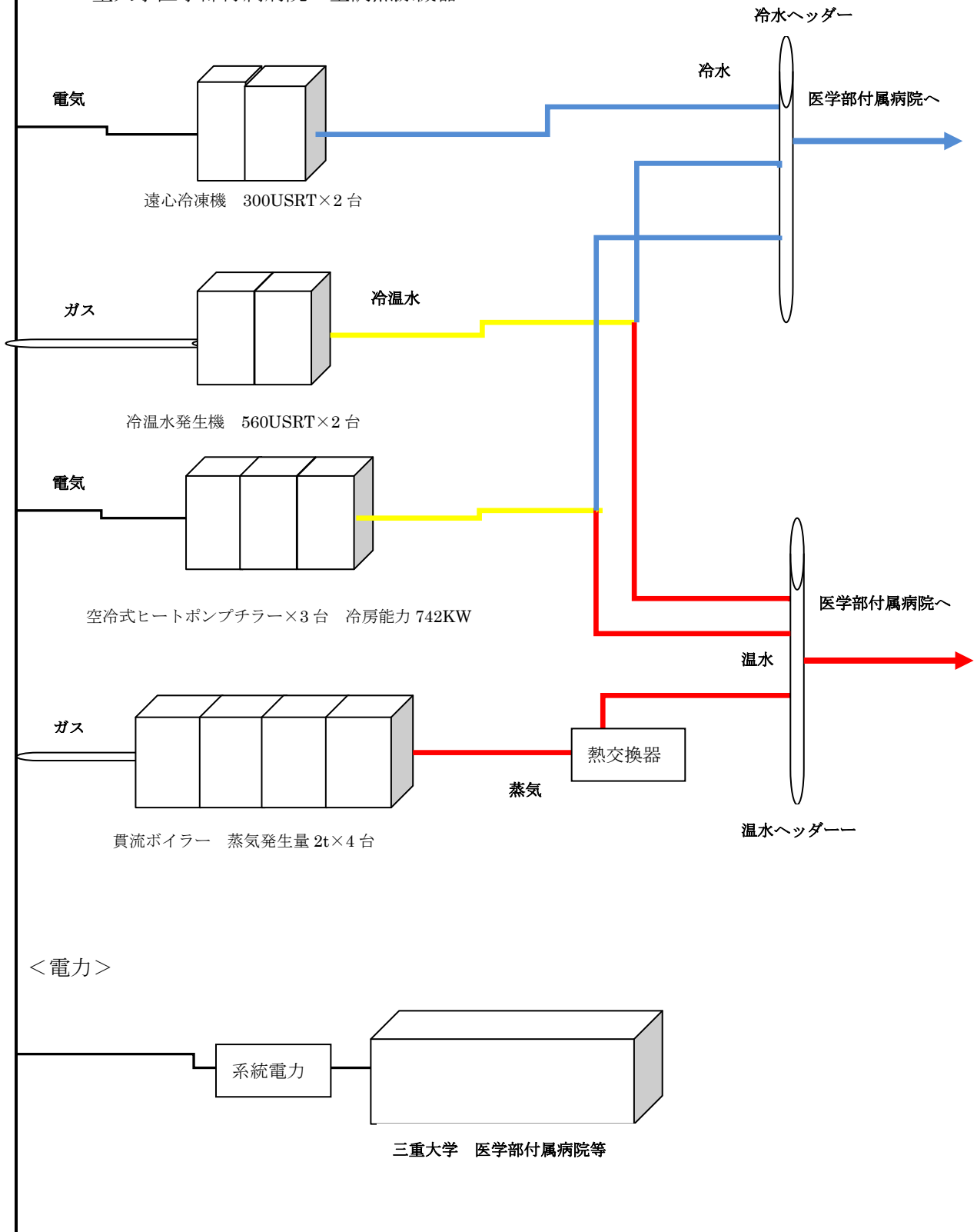
プロジェクト名	三重大学におけるコージェネレーション、太陽光発電設備及び風力発電設備の導入による省エネルギー事業	
目的	三重大学においてコージェネレーションの導入によって化石燃料の消費量を削減し、太陽光、風力発電設備の導入によって電力消費量の削減する。これらの省エネルギーの取り組みによってスマートキャンパス化を目指し、二酸化炭素排出量の削減を行う。	
概要（削減方法）	三重大学において、空調設備の熱源としてコージェネレーションを導入することで化石燃料の消費量を削減する。また太陽光、風力発電設備を導入し、系統電力からの電力消費量を削減する。これらによって省エネルギー化を行い、二酸化炭素排出量を削減する。	
プロジェクト実施場所	実施事業所名	国立大学法人三重大学
	住所	三重県津市栗真町屋町 1577

2.2 プロジェクト実施前後の状況

(プロジェクト実施前の概要図※1) :

(コージェネレーションの更新)

<三重大学医学部付属病院の空調熱源機器>



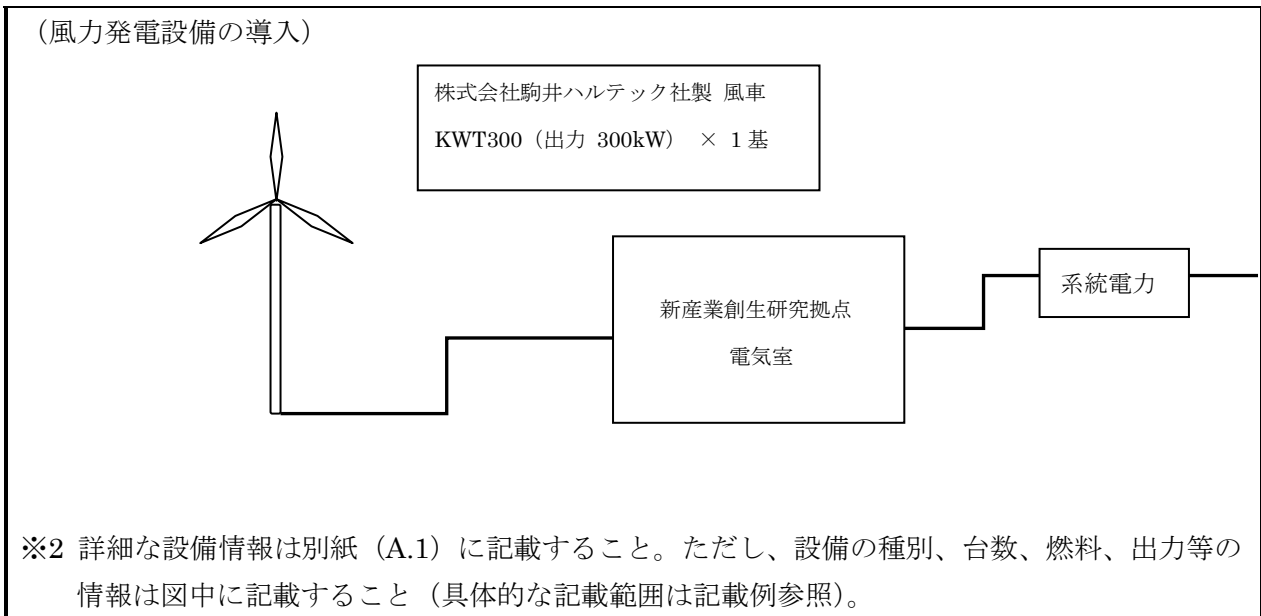
(太陽光発電設備の導入)

なし

(風力発電設備の導入)

なし

※1 詳細な設備情報は別紙 (A.1) に記載すること。ただし、設備の種別、台数、燃料、出力等の情報は図中に記載すること (具体的な記載範囲は記載例参照)。また、新設プロジェクト又は国内クレジット制度若しくはオフセット・クレジット (J-VER) 制度から移行したプロジェクトの場合にはベースラインとして設定した標準的な設備の情報を記載すること。



2.3 プロジェクト要件への適合

<p>プロジェクトの実施日 ※1</p>	<p>■2013年4月以降に実施されたプロジェクトである</p> <p>□2012年4月～2013年3月に実施されたプロジェクトであり、国内クレジット制度における事業承認及びオフセット・クレジット (J-VER) 制度におけるプロジェクト登録のいずれも受けていない ※2</p> <p>□2008年4月～2013年3月に実施されたプロジェクトであり、国内クレジット制度における事業承認又はオフセット・クレジット (J-VER) 制度におけるプロジェクト登録を受けている ※3</p>
<p>追加性</p>	<p>■追加性を有している ※4</p>

※1 「プロジェクトの実施日」とは、設備の稼働日や燃料の切替えを行った日を指す。

※2 2013年度中に限り J-クレジット制度のプロジェクトとして登録申請を行うことができる。

※3 国内クレジット制度又はオフセット・クレジット (J-VER) 制度から移行したプロジェクトについては、「2013年4月以降に実施されたもの」という要件を満たしている必要はない。ただし、標準的な設備をベースラインとして設定する必要がある。

※4 追加性評価に関する詳細情報は別紙 (A.2) に示すこと。方法論の7. 付記において、追加性の評価が不要とされているもの (ポジティブリスト) については、別紙 (A.2) の記入は不要。

3 方法論

3.1 適用方法論

照明設備の導入

適用する方法論	方法論番号	<u>EN-S-007 ver. 1.1</u>
	方法論名称	コージェネレーションの導入
更新／新設 ※1	<input checked="" type="checkbox"/> 更新プロジェクト <input type="checkbox"/> 新設プロジェクト	

適用する方法論	方法論番号	<u>EN-R-002 ver. 1.0</u>
	方法論名称	太陽光発電設備の導入
更新／新設 ※1	<input type="checkbox"/> 更新プロジェクト <input checked="" type="checkbox"/> 新設プロジェクト	

適用する方法論	方法論番号	<u>EN-R-008 ver. 1.0</u>
	方法論名称	風力発電設備の導入
更新／新設 ※1	<input type="checkbox"/> 更新プロジェクト <input checked="" type="checkbox"/> 新設プロジェクト	

3.2 方法論の適用条件への適合 ※1

コージェネレーションの導入

条件 1	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	<p>説明</p> <p>コージェネレーション設備を導入し、ベースラインの熱源設備から供給される熱と、系統電力を代替しているため条件 1 を満たす。</p> <p>また①更新前の熱源設備(ボイラー、冷温水発生機、ターボ冷凍機、空冷式ヒートポンプチラー)の情報が取得でき、②更新前の設備の導入日は 2010 年 12 月以降であり、使用期間は法定耐用年数の 2 倍以内で現在も稼働していることから故障による更新ではない。また③更新前後で設備のエネルギー量以外の能力特性が変わらずに、④ 更新後の設備の定格能力は更新前の設備の定格能力に対して 1.5 倍を超えない。以上により、更新プロジェクトの条件を満たす。</p>
条件 2	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	<p>説明</p> <p>コージェネレーションで生産した熱および電力を全量自家消費するため条件 2 を満たす。</p>

太陽光発電設備の導入

条件 1	<input checked="" type="checkbox"/> 適合している	<p>説明</p> <p>太陽光発電設備を導入しているため条件 1 を満たす。</p>
------	--	---

条件 2	■ 適合している	説明 太陽光発電設備で発電した電力を全量自家消費しているため条件 2 を満たす。
条件 3	■ 適合している	説明 太陽光発電設備で発電した電力が、系統電力等を代替するものであるため条件 3 を満たす。

風力発電設備の導入

条件 1	■ 適合している	説明 風力発電設備を導入しているため条件 1 を満たす。
条件 2	■ 適合している	説明 風力発電設備で発電した電力を全量自家消費しているため条件 2 を満たす。
条件 3	■ 適合している	説明 風力発電設備で発電した電力が、系統電力等を代替するものであるため条件 3 を満たす。

※1 記載内容に関する根拠資料や関連情報等について、妥当性確認機関からの要求に応じて情報提供を行うこと。

3.3 モニタリング・算定方法

コージェネレーションの導入

ベースライン排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	系統電力等の使用	CO2	－	■排出量の算定を行う
主要	ボイラーの使用	CO2	－	■排出量の算定を行う

プロジェクト実施後排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	コージェネレーションの使用	CO2	－	■排出量の算定を行う

太陽光発電設備の導入

ベースライン排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	系統電力等の使用	CO2	－	■排出量の算定を行う

プロジェクト実施後排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	太陽光発電設備の使用	CO2	－	■排出量の算定を行う
付随的	電力制御装置の使用	CO2	0.6%	■排出量の算定を行わない
付随的	蓄電池の使用	CO2	－	■排出量の算定を行わない

風力発電設備の導入

ベースライン排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	系統電力等の使用	CO2	－	■排出量の算定を行う

プロジェクト実施後排出量 ※1				
主要／ 付随的	排出活動	温室効果ガス の種類	影響度 ※1	モニタリング・算定の実施 ※2
主要	風力発電設備の使用	CO2	－	■排出量の算定を行う

付随的	電力制御装置の使用	CO2	—	■排出量の算定を行わない
付随的	蓄電池の使用	CO2	0.96%	■排出量の算定を行わない

※1 各排出活動の排出量算定方法及び影響度の算定方法については別紙（A.3）に記載すること。

※2 モニタリング方法については別紙（A.4）に記載すること。

4 排出削減計画

コージェネレーションの導入

認証予定期間 ※1	2016年 3月 23日 ~ 2021年 3月 31日 (5年0ヶ月)			
排出削減計画 ※2	年度	ベースライン排出量	プロジェクト実施後 排出量	排出削減量
	2013年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2014年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2015年度	243.0 t-CO2	164.8 t-CO2	78 t-CO2
	2016年度	9,854.3 t-CO2	6,684.9 t-CO2	3,169 t-CO2
	2017年度	9,746.5 t-CO2	6,684.9 t-CO2	3,061 t-CO2
	2018年度	9,688.7 t-CO2	6,684.9 t-CO2	3,003 t-CO2
	2019年度	9,636.0 t-CO2	6,684.9 t-CO2	2,951 t-CO2
	2020年度	9,636.0 t-CO2	6,684.9 t-CO2	2,951 t-CO2
	合計	48,804.5 t-CO2	33,589.3 t-CO2	15,213 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 電力の CO2 排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由 (以下に記載すること)			

太陽光発電設備の導入

認証予定期間 ※1	2016年 3月 23日 ~ 2021年 3月 31日 (5年0ヶ月)			
排出削減計画 ※2	年度	ベースライン排出量	プロジェクト実施後 排出量	排出削減量
	2013年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2014年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2015年度	1.0 t-CO2	0 t-CO2	1 t-CO2
	2016年度	39.0 t-CO2	0 t-CO2	39 t-CO2
	2017年度	38.5 t-CO2	0 t-CO2	38 t-CO2
	2018年度	38.2 t-CO2	0 t-CO2	38 t-CO2
	2019年度	38.0 t-CO2	0 t-CO2	38 t-CO2
	2020年度	38.0 t-CO2	0 t-CO2	38 t-CO2
	合計	192.7 t-CO2	0 t-CO2	192 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 電力の CO2 排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由 (以下に記載すること)			

風力発電設備の導入

認証予定期間 ※1	2016年 3月 23日 ~ 2021年 3月 31日 (5年0ヶ月)			
排出削減計画 ※2	年度	ベースライン排出量	プロジェクト実施後 排出量	排出削減量
	2013年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2014年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2015年度	3.5 t-CO2	0 t-CO2	3 t-CO2
	2016年度	143.9 t-CO2	0 t-CO2	143 t-CO2
	2017年度	142.1 t-CO2	0 t-CO2	142 t-CO2
	2018年度	141.1 t-CO2	0 t-CO2	141 t-CO2
	2019年度	140.2 t-CO2	0 t-CO2	140 t-CO2
	2020年度	140.2 t-CO2	0 t-CO2	140 t-CO2
	合計	711.0 t-CO2	0 t-CO2	709 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 電力の CO2 排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由 (以下に記載すること)			

合計

認証予定期間 ※1	2016年 3月 23日 ~ 2021年 3月 31日 (5年0ヶ月)			
排出削減計画 ※2	年度	ベースライン排出量	プロジェクト実施後 排出量	排出削減量
	2013年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2014年度	0 t-CO2	0 t-CO2	0 t-CO2
	2015年度	247.5 t-CO2	164.8 t-CO2	82 t-CO2
	2016年度	10,037.2 t-CO2	6,684.9 t-CO2	3,351 t-CO2
	2017年度	9,927.1 t-CO2	6,684.9 t-CO2	3,241 t-CO2
	2018年度	9,868.0 t-CO2	6,684.9 t-CO2	3,182 t-CO2
	2019年度	9,814.2 t-CO2	6,684.9 t-CO2	3,129 t-CO2
	2020年度	9,814.2 t-CO2	6,684.9 t-CO2	3,129 t-CO2
	合計	49,708.2 t-CO2	33,589.3 t-CO2	16,114 t-CO2
年度ごとに排出削減量が異なる場合の理由	<input checked="" type="checkbox"/> 電力の CO2 排出係数の影響による <input type="checkbox"/> その他の理由 (以下に記載すること)			

※1 認証予定期間は、プロジェクト登録の申請予定日若しくはモニタリングが可能となる予定日のいずれか遅い日から 2021年 3月 31日までの間で設定すること。

※2 排出削減量の算定方法については、別紙 A.3 に記載すること。

5 データ管理

データの品質を確保するための仕組みとして、データ収集・集計等体制の整備と個別データの信頼性の向上について以下に記載する。詳細については、J-クレジット制度実施規程（プロジェクト実施者向け）「2.4」を参照のこと。

5.1 モニタリング体制

データ管理責任者 ※1	大学院地域イノベーション学研究科 副研究科長 スマートキャンパス部門 部門長
モニタリング担当者 ※1	施設部 施設管理チーム

※1 担当者の組織、役職名を記載すること（個人名は不要）。原則として、それぞれ別の担当者をおくこと。

5.2 モニタリングデータの収集・記録・保管

モニタリングデータの収集・記録・保管の手続 ※1	<p>コージェネレーションの導入</p> <ul style="list-style-type: none">・モニタリング担当者は、コージェネレーションの燃料使用量（都市ガス）を流量計より記録し、管理する。・モニタリング担当者は、コージェネレーションによる発電電力量を積算電力量計で計測し、専用パソコンより確認してデータ抽出を行い、記録・管理する。・モニタリング担当者は、コージェネレーションによる生成熱量（温水、冷水）および蒸気使用量を専用パソコンより確認してデータ抽出を行い、記録・管理する。 <p>太陽光発電設備の導入</p> <ul style="list-style-type: none">・モニタリング担当者は月 1 回、太陽光発電設備の発電電力量を専用パソコンより確認してデータ抽出を行い記録、管理する。 <p>風力発電設備の導入</p> <ul style="list-style-type: none">・モニタリング担当者は月 1 回、風力発電設備の発電電力量を専用パソコンより確認してデータ抽出を行い記録、管理する。
データ保存期間 ※2	認証対象期間終了後 <u> 2 </u> 年間

※1 認証対象期間において複数の担当者がモニタリングを行う場合には、全ての担当者が適切にモニタリングデータの収集・記録・管理を行うための仕組みも併せて記載すること。

※2 原則認証対象期間終了後 2 年間とする。

6 特記事項

6.1 排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクの特定について ※1

排出量の削減に影響を与える可能性のあるリスクがあるか

有 無

※1 プロジェクト排出量が増加し、ベースライン排出量を上回る可能性のあるリスクも含む。リスクの例は、記載例を参照

(「有」にチェックした場合に記入)

項目	概要
リスク要因	

6.2 ダブルカウントの防止措置について

類似制度へプロジェクトを登録しているか。

登録している

(類似制度名： _____)

類似制度での認証予定期間： _____)

登録していない

6.3 法令等の義務の有無について

プロジェクトの実施は、法令等の義務履行によるものではないか。

法令等の義務履行によるものではない。

法令等の義務履行によるものである。